蓬莱の玉の枝――「竹取物語」から (2)

『竹取物語』冒頭

今は昔、竹取の翁といふ(ウ)者ありけり。
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ(ズ)のことに使ひ(イ)けり。
分け入っては、　取っては、　いろいろなことに

名をば、さぬきのみやつことなむいひける。
名を、　「さぬきのみやつこ」といった。

その竹の中に、もと光る竹なむ(ン)一筋ありける。
(ある日)その竹の中に、根元の光る竹が　一本あった。

①あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
近寄って見ると、　光っている。

それを見れば、※三寸ばかりなる人、②いとうつくしうてゐたり。
三寸ほどである人が、　座っている。

翁はその子を手の中に入れて家へ帰り、媼とともに育てました。その後、翁はたびたび黄金の入った竹を見つけるようになり、次第に裕福になっていきました。翁と媼に育てられた子は三か月ほどで美しい娘に成長し、やがて「※なよ竹のかぐや姫」と名づけられました。

※三寸…一寸は約三センチメートル。三寸はここではきわめて小さいという意味で用いられている。
なよ竹…細くてしなやかな若い竹。

古文の読み方

古文では、主語や助詞などがなかったり省略されていたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むとよい。

(例)…竹取の翁といふ者〈が〉ありけり。〈竹取の翁は〉野山にまじりて…

重要語句

よろづ	いろいろ・全ての事
あやしがる	不思議に思う
いと	とても・たいそう
うつくし	かわいらしい
ゐる	座る・いる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣(づか)いに直したものとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さぬきのみやつことなむいひける

さぬきのみやつこと〔　　〕

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

いとうつくしうてゐたり

いと〔　　〕

(3) ——線①「あやしがりて」の意味を選びなさい。

ア 美しく思って　**イ** 恐(おそ)ろしく思って

ウ 不気味に思って　**エ** 不思議に思って

〔　　〕

(4) ——線②「いとうつくしうて」の意味を選びなさい。

ア ちょっときれいな様子で

イ とてもかわいらしい様子で

ウ わずらわしく思っている様子で

〔　　〕